



社会学類 への招待

A Guide to
College of Social Sciences,
University of Tsukuba

ようこそ 社会学類へ

Welcome to College



黄 順 姫 ●ファン・スプシー
社会学主専攻教授、社会学類長

都心と研究学園都市の 生活世界を同時に生きる

筑波大学は、東京の秋葉原から約45分程でつくばに到着するので、東京に居住しながら通学できる圏内にあります。また、地方からの学生たちは、静かに落ち着いて勉強ができる研究学園都市のつくばに居住しながら、簡単に東京へアクセスができます。この利便性と独立性によって、社会学類の学生たちは二つの生活世界でのリアリティを直接感じ、観察しながら社会科学の勉強に役立てることができます。

知的水準の高いグローバル・シティの グローバル・ユニバーシティ

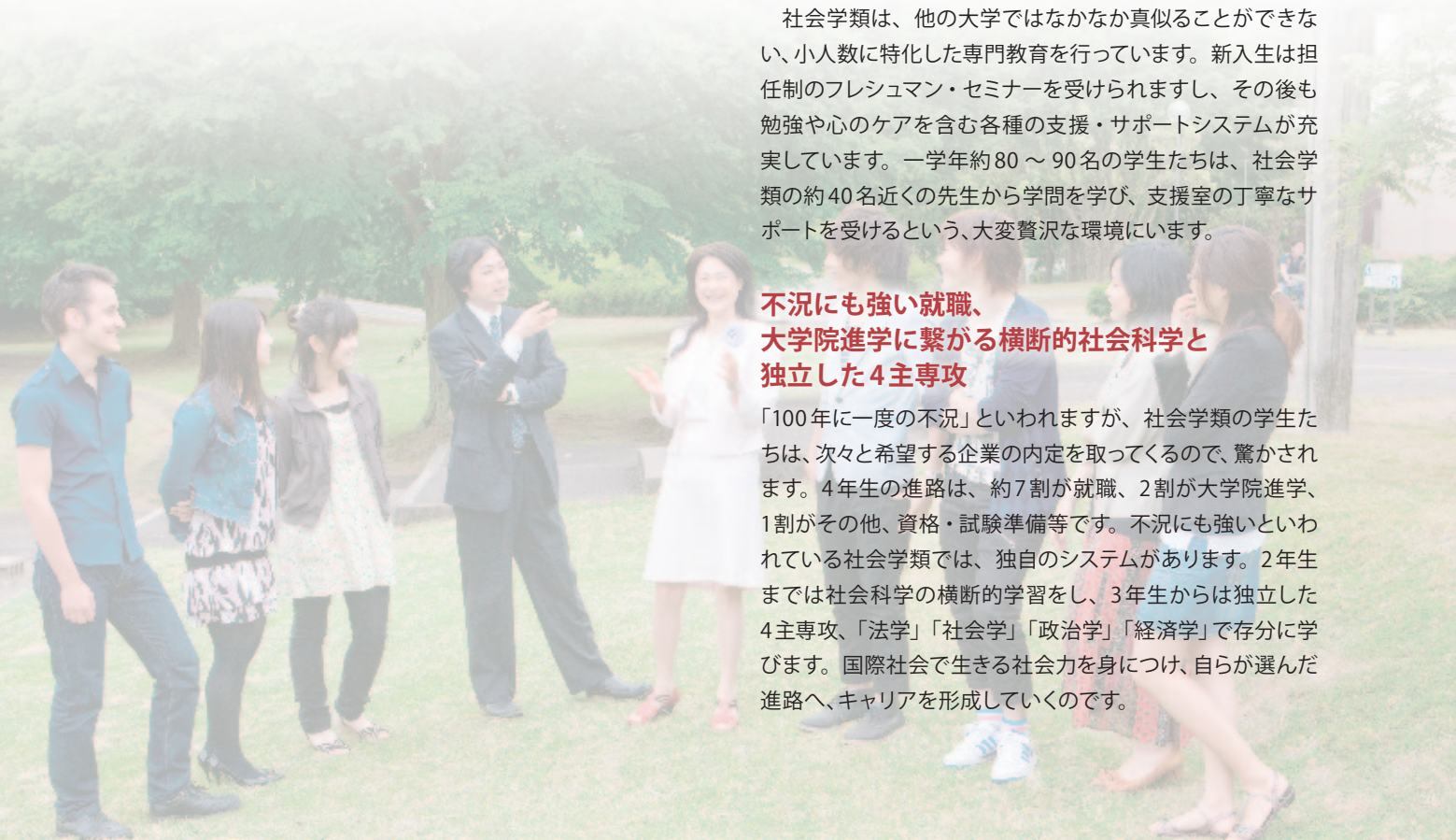
つくば市は国内でも屈指の研究所が多くあり、世界の知識人、科学者が集まって生活する知的環境の豊かな町です。筑波大学の社会学類では、留学生30万人誘致計画にもとづく「グローバル30」の教育プログラムがスタートします。優れた外国人の教授陣と世界各国から優秀な留学生たちが新たに加わり、英語による教育環境が整えられます。一段とグレードアップした社会学類で、彼らとともに社会科学を学ぶことができます。

少人数、差異化の優れた教育環境と、 支援・サポートシステム

社会学類は、他の大学ではなかなか真似ることができない、小人数に特化した専門教育を行っています。新入生は担任制のフレッシュマン・セミナーを受けられますし、その後も勉強や心のケアを含む各種の支援・サポートシステムが充実しています。一学年約80～90名の学生たちは、社会学類の約40名近くの先生から学問を学び、支援室の丁寧なサポートを受けるという、大変贅沢な環境にいます。

不況にも強い就職、 大学院進学に繋がる横断的社会科学と 独立した4主専攻

「100年に一度の不況」といわれますが、社会学類の学生たちは、次々と希望する企業の内定を取ってくるので、驚かされます。4年生の進路は、約7割が就職、2割が大学院進学、1割がその他、資格・試験準備等です。不況にも強いといわれている社会学類では、独自のシステムがあります。2年生までは社会科学の横断的学習をし、3年生からは独立した4主専攻、「法学」「社会学」「政治学」「経済学」で存分に学びます。国際社会で生きる社会力を身につけ、自らが選んだ進路へ、キャリアを形成していくのです。



About University of Tsukuba

筑波大学について

筑波大学は、百余年の伝統をもつ東京教育大学を引き継ぎ、1973年10月に「新構想」大学として、学際的な教育・研究を行うこと、社会的にも国際的にも開かれていることを目的に開学し、2008年には35周年を迎えました。長い歴史をもつと同時に、新たな伝統を創りつつある大学といえましょう。

東京の近郊、関東平野の中ほど、筑波山の南に広がる筑波研究学園都市（行政上は、茨城県つくば市）の一角に、全国でも有数の広大なキャンパスを占める本学の、他大学と異なる特徴は、次の3点にあります。

- ①学部制に代えて、学生を教育するための組織である学群・学類を設けたこと。
- ②前期2年の教養学部を廃止して、入学直後から大学としての専門教育を開始し、外国語や総合的な教養科目を効率的に配置したこと。
- ③3学期制（1学期：4～6月、2学期：9～11月、3学期：12～2月）を採用し、年度の途中からでも制度の異なる外国の学生や研究者・教員の往来を容易にしたことです。

社会学類は開設以来、人文学類、自然科学類とともに第一学群を構成してきましたが、社会情勢の変容や社会が求める大学像の変化などを踏まえ、平成19年度から社会・国際学群に属する2学類の1つとなりました。社会学類は30年以上も積み重ねてきた成果を大事にしなが、新しい学群とともに構成する国際総合

学類と協力しあって、社会科学分野における総合的・専門的な教育を一層充実させることを目指しています。たとえば主専攻ごとに、必要に応じて国際総合学類との共通科目が設定されており、社会学類生は国際総合学類の科目を履修しながら、社会学類の卒業に必要な単位を取得することができます。

さらに、社会学類生は、社会学類の科目に限らず、さまざまな他学群・学類の講義を受けることもできます。

筑波大学の学群・学類

- 人文・文化学群 …… 人文学類、比較文化学類、日本語・日本文化学類
- 社会・国際学群 …… 社会学類、国際総合学類
- 人間学群 …… 教育学類、心理学類、障害科学類
- 生命環境学群 …… 生物学類、生物資源学類、地球学類
- 理工学群 …… 数学類、物理学類、化学類、応用理工学類、工学システム学類、社会工学類
- 情報学群 …… 情報科学類、情報メディア創成学類、知識情報・図書館学類
- 医学群 …… 医学類、看護学類、医療科学類
- 体育専門学群
- 芸術専門学群

目次

ようこそ社会学類へ	
筑波大学について	1
カリキュラム／社会学類について	2
卒業生の声	3
在学生達の声	5
各主専攻の紹介	
社会学主専攻	8
法学主専攻	10
政治学主専攻	12
経済学主専攻	14
「社学生」の生活	16
卒業生の進路／最近の主な就職先	18
入学案内／交通案内／筑波研究学園都市	20



学類長 黄順姫先生とともに

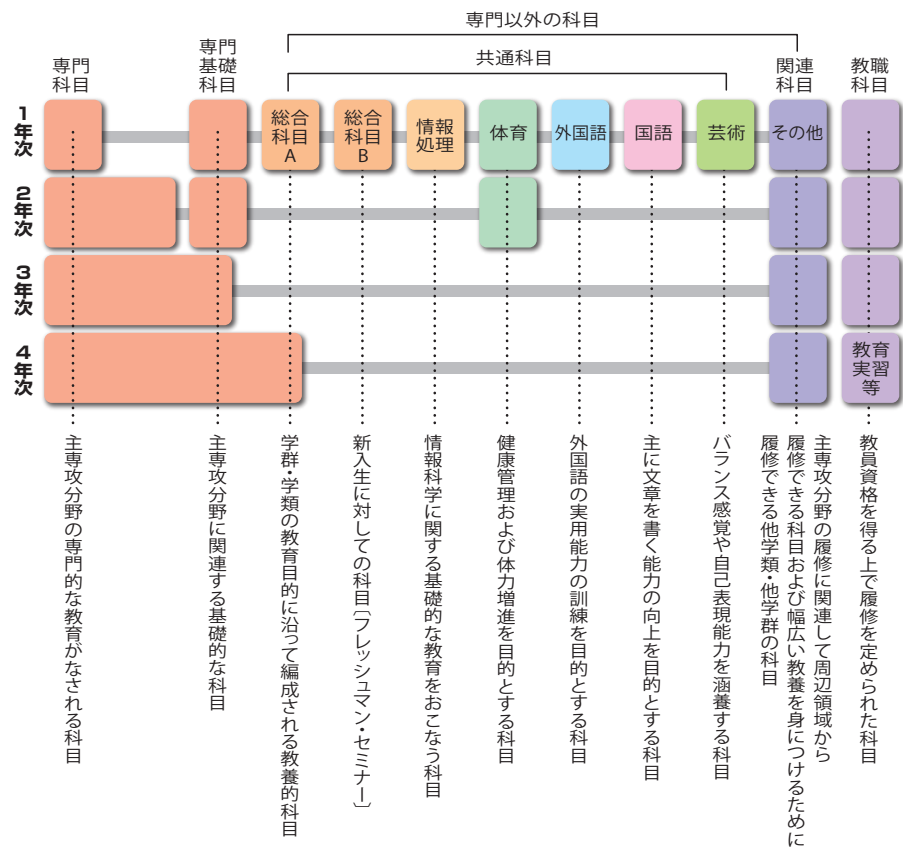
撮影：小沼 渉

カリキュラム

筑波大学の授業は、従来の大学に多く見られるような教養課程と専門課程という段階的な区分を設けず、一般教育的な科目と専門教育的な科目を有機的に総合的に提供しています。

したがって、学生は、1年次から専門分野の学問に触れることができ、また必要と興味とに応じて他の幅広い学問分野からも知識を吸収することができます。4年間という期間を計画的に、また自らの関心にしたがって組み立てていくことによって、高校時代には味わうことのできなかった学問の奥深さと面白さを、きっと知ることができるでしょう。

授業は、「専門科目」、「専門基礎科目」、「共通科目」、「関連科目」に大きく分けられます。このうち、「専門科目」では各主専攻の専門分野に関わる知識を、「専門基礎科目」では専門分野に関連する社会科学の基礎的な知識を、「共通科目」では外国語、情報処理、体育、国語、芸術などを、「関連科目」では専門以外の幅広い教養を学びます。



About College of Social Sciences

社会学類について

社会学類は、社会科学を総合的に教育することを目的とし、同時に専門の内容を深めるために3～4年次は社会学・法学・政治学・経済学の4主専攻に分かれます。他の大学に当てはめて言えば、社会学部(ないし文学部社会学科)、法学部(法律学科・政治学科)、経済学部(それぞれ所属しながら、他学部(他主専攻)の勉強をすることも可能であり、かつ必要というわけです。

人間はともすると、「深ければ、狭く」「広ければ、浅く」なりがちですから、ひとつの主専攻を深く、かつ他の主専攻を広く勉強することは、決して容易なことではありません。しかし、現代の複雑な社会問題はそのような勉強を要求していますし、またそれに応える勉強は楽しいものです。

たとえば、主専攻分野の勉強を深めるために、2～4年次においては、少数数形式の入門演習や演習(ゼミナール)が設けられ、活発な討論と深い研究の「場」となっています。また、指定の「教職科目」を修得することにより、教員の資格が得られます。社会学類で取得できる主な免許状(科目)は中学校1種(社会)、高等学校1種(公民)です。

このほか、学生が生きた学問を体感できるように工場見学や施設見学を行ったり、全国的にも珍しい裁判員制度に対応した模擬法廷教室で裁判実務の講義を行ったりしています。

社会学類と関係する大学院

社会科学と関係する大学院が筑波大学には多数設けられており、大学院に進学する学生も増えています。社会学類と最も密接な関わりを持つものとして人文社会科学研究科があり、現代文化専攻、国際公共政策専攻、法学専攻、経済学専攻の社会系4専攻などが設けられています。その他に教育研究科、生命環境科学研究科、芸術・世界遺産研究科、システム情報工学研究科、ビジネス科学研究科などがあります。

法学分野では、東京秋葉原に、社会人を対象とした法科大学院(ロースクール)が設置されています。

社会学類を卒業後、上記の大学院を経て、あるいは他大学の大学院(ロースクールを含む)を経て、大学やその他の研究機関、行政機関、法曹界、シンクタンク、マスメディアなどで専門知識を生かし研究を続けることが可能です。そうした多くの先輩が活躍しています。



社会学主専攻卒
中村 亜貴

社

読売新聞社会部

動物園、通信販売、旅、死……。これらは全部、私が学生だった十数年前、当時のゼミ仲間や先輩たちが「社会学」していたテーマです。法学や政治学、文学などと比べると、社会学は高校生の皆さんにはイメージがわきにくい学問かもしれません。でも、こうして並べてみると、何でも題材になりうる、身近な学問に思えてきませんか？

私の卒論のテーマは、「喫茶店の社会学」。当時、一昔前まで多かった閉鎖的な建築様式の喫茶店はどんどん数が減り、街には、外に向かって開かれたオープンカフェや、スターバックスに代表されるコーヒチェーンが急激に増えていました。喫茶店の変貌はなぜ起こったのか、人々は何を求めて喫茶店に通うのかを、1年かけて考えました。

なぜ、どうしてと思う出来事や現象があれば、社会学はすぐ始められます。社会学専攻では、研究者たちの文献を読むことや、インタビューやアンケートなどを行う実習を通して、「なぜ」を解明するトレーニングを積みこじになります。

私にとっては、4年間の勉強自体もたいへんおもしろく、有意義なものでしたが、ここで身につけた、物事をいろんな角度から見ようとする習慣は、新聞社に入り、記者の仕事をする上でもとても役に立っています。そしてそれはきっと、卒業後の道に進んでいとしても、同じように糧となってくれたことは間違いなくと思います。

テーマが見つかるか不安、という声も聞こえてきそうですが、心配はいりません。学生時代はおそらく、長い人生の中でも最も、いろんなことに首をつっこむことができる時期です。授業からヒントを得ることももちろんあると思いますが、サークル活動、アルバイト、旅やボランティア活動などでぶつかるふとしたことの中にも、「なぜ」の種はたくさん転がっているはずですよ。

すでに、社会で起こっていることに対する「なぜ」がある人はもちろん、まだそれが無い人も、一度社会学の世界をのぞいてみてはいかがでしょうか。



社会学主専攻卒
富井 久義

社

筑波大学大学院
人文社会科学部国際公共政策専攻在学中

大学院で社会学を専攻していて感じることは、ここは自分のこだわりを探求してゆく場所なのだろう、ということです。院生それぞれがこだわりをもって、

そのこだわりについて議論をするなかで新たな知見を発見してゆく場所なのだろうと。「で、結局きみはなにがしたいの?」と問われては、自分のこだわりをことばにして、そのことばが自分のこだわりをうまく言い表すことができるかどうかを考えることの繰り返しです。

社会学は、さまざまなこだわりを広くカバーすることのできる領域です。多くの先人が、広大な領域について、それぞれのこだわりから発見を積み重ねています。だからこそ、私のこだわりもあなたのこだわりも社会学の対象となっており、いろいろな観点から議論することができるし、それが社会学のおもしろさのひとつといえるのかもしれない。

ただ、私はそうしたこだわりを自分も持っているなどとは、ゆめゆめ気づかずに高校生活を送っていました。テレビでドラマ・バラエティ・スポーツ番組を観ては翌日の話のネタを探ることが日課でした。そうした私も大学生活では「ボランティアをしているひと」として認識されるようになって、大学生活の多くの時間を割いていました。そうした経験を友人に話すとてもおもしろがってくれて、そうしたなかで自分の興味関心・こだわりというものが見えてきて、そのこだわりが、自分のいまの研究につながっています。ちなみに私のこだわりは、「善いこと」を「善いこと」と言わなくてはならないのはなぜか、ということについてです。高校生の私には、あたりまえすぎてそのなかに疑問なのか、わからないといわれるように思います。

たぶん大学生活で大事なことは、なんでも「それおもしろいね」というおもしろがってみることなのだと思います。社会学を勉強することに限らず、サークル活動に精を出したり、遊んだり、なにもしないでもいい。そうしたなかで自分がこだわってしまうことに気づいてそれとつきあっていくことが、高校までの勉強との大きなちがいのなかなかなもしれません。

卒業生の声

法

法学主専攻卒
長谷川 将希

大阪地方検察庁検事



私は、筑波大学に入り、その後、法科大学院を経て、検事になりました。検事の仕事は、被告人の処分を決するという面で責任重大ですが、とてもやりがいがあり、この仕事でしか経験することのできないことも数多くあると思います。

私は、筑波大学に入学したとき、弁護士になれればいなと漠然と考えていただけでした。しかし、大学生活の中で、法律という科目の面白さに気付き、本気でこの世界に入り、法律に携わる仕事がしたいと思うようになりました。

法律は完璧ではありません。だからこそ、その適用をめぐる様々な考え方が主張され、学説の対立が生じます。法律の勉強は六法全書を暗記することではなく、この学説の対立を通じて色々な視点、考え方を学ぶことにあると思います。色々な視点、考え方を学ぶことは、今後新しい問題が生じたときにも、その視点、考え方を応用して対応することのできる能力を身につけることにもなります。実際の事件を解決する中では教科書に載っていない新しい問題に触れることが多くあります。そのときに対応できる能力を養うためにも様々な視点や考え方を学ぶことはとても大切だと思います。

私は、このことに気がついてから、法学の勉強が楽しくなりました。法科大学院では、法律家の養成を目的としているので、六法全書の中にある憲法、民法、刑法などについて基本的知識を身につける必要がありますが、これらを身につけるためには、法学の勉強を面白いと感じることが必要だと思います。法学の勉強が面白いと感じることができなければ勉強を続けることも苦痛になります。私は、大学時代に法学の面白さを感じることができたので、ここまで勉強を続けてこられたのだと思います。

筑波大学に入学する人の中には、初めから法曹になりたいと考えている人もいます。そんな人こそ、大学時代に法学の面白さを感じてほしいと思います。

法

法学主専攻卒
金澤 朋美

みずほ銀行



私は今、銀行で営業の仕事をしています。銀行は様々な業界の会社と取引があり、好奇心の強い私にはとても魅力的な仕事です。この仕事を選んだきっかけは、大学のゼミでの経験が強く関係しています。そのきっかけについて、この場をお借りして紹介させていただきたいです。

私は社会学類法学主専攻で家族法ゼミに所属していました。このゼミでは、親子・夫婦に関する身近な社会問題を取り上げ、関連法や判例について学んでいました。ただ法律的な観点だけにはとられず、社会通念・倫理観・行政などの幅広い分野からも問題を検討していききました。具体的には、私は当時物議を醸していた「赤ちゃんポスト」を取り上げてきました。子どもの権利や親の養育義務について法律的に調べるだけでなく、この制度が日本人の倫理観に合致できるかどうか、海外での制度とその歴史はどのようなものか、という事についても詳しく調べていきました。様々な分野から多面的に問題を捉えることで、より深く掘り下げて検討することができ、理解も深まりました。同時に、もっと色々な分野を知りたいという好奇心が強くなってしまい、多くの業界に関われることができる今の仕事を選びました。

また、家族法ゼミは他のゼミに比べて人数が多く、たくさんの意見を聞いたことも貴重な経験でした。法律は「正答」がない学問なので、人それぞれの、ましては十人十色な意見を出しあって、なるべく皆が納得できる着地点を見つけていくことが大切です。この経験は、今の営業という仕事で、顧客と条件折衝していく場面で非常に役に立っています。

家族法ゼミについてばかり述べてきましたが、社会学類は全体的に、多くの意見に触れながら自分の価値観を築いていける環境や雰囲気を整えていると思います。学生の皆さんには、大学で専門的な学問知識を修得するのと共に、様々な観点から物事を捉えられるような柔軟な発想力も是非身につけていっていただきたいです。



政治学主専攻卒

鈴木 真理

政

信州大学人文学部学務係

「自民党と民主党ってどんな違いがあるの?」友達に何気ない会話の中で聞かれたとき、少し上手く説明できて「なるほど」と言ってもらえる。選挙のお知らせが来たときに、マスコミ報道に流されるのではなく、過去と未来も考えて投票できる。視野を広げると、世界で続いている戦争の理由が少しわかる。そして、今の「しあわせな生活」がどのようにして作られて、どれだけ貴重なものかわかる。政治学主専攻で学び、政治家にも官僚にもなっていない私にできることはそれくらいですが、どれも大切なことだと思っています。

政治学主専攻では、現在の世界のあり方に関わる過去の政治的事件、今日のニュースで話題になっていた選挙、何かある度に問題になる行政対応のあり方、実はよく知らない他の国の政治の仕組みと人々の政治行動など、幅広く学ぶことができます。どのテーマも、直接的・間接的に自分の生活につながっているものばかりです。

私は現在、国立大学法人の職員として働いています。窓口対応のほか、学生のインターンシップ(就業体験実習)の手続きをしたり、就職状況調査を取りまとめたり、一見すると政治とは全く縁のない生活に思えます。けれど、国立大学が国立大学法人となったのも政治によるもので、今の大学運営もその影響を強く受けています。重要視されてきているインターンシップやキャリア教育の推進でも、国の政策は欠かせません。ただ目の前の仕事をこなすのではなく、視野を広げていたい。その思いは政治学主専攻で学ぶ中で強まったものです。

まだ政治の専門知識がなくても、ニュースや新聞を見るのが好き、世の中のこともっと知りたいという人に、政治学主専攻をおススメします。個性豊かな先生の講義や、仲間との議論の中で、政治の深さと広さに気づくことができます。そして自分だけの研究テーマを見つけ挑戦したならば、それはきっと、この世界をよく見て生きていくための力になるでしょう。



政治学主専攻卒

櫻井 克行

政

茨城県庁職員

政治学と聞いて、何を思い浮かべますか?選挙?国会?官僚?

もちろんこういったことも確かに「政治」です。日々の生活をみまわすと、テレビや新聞あるいはネット上で常に「政治」が語られています。しかし、政治とはこのように語られるものだけではなく、我々の生活に非常に密着したもののなのです。例えば、親との関係、学生生活、あるいはアルバイトなどこれらはすべて政治といえることができるのです。わかりやすい例を挙げると、「ドラえもん」のび太とジャイアン。この二人の間にも政治はあるのです。ジャイアンは暴力をチラつかせてのび太に無理矢理歌を聴かせます。政治学的にこれを見ると、ここでジャイアンはのび太に対して暴力という「権力」を持っているためにのび太の行動を強制できたと言えるのです。現実の社会では複雑な関係からこう単純には行きませんが、政治学の枠組みを用いると多くのことが説明できるのです。

この点で政治学とは「政治」を学ぶのではなく、政治的な枠組を用いて社会を分析する学問と言えるのです。

政治学専攻で学ぶ内容は、哲学的な政治思想やより具体的な行政学、また日本の戦前・戦中・戦後の政治や現代の対テロ戦争など、対象とするレイヤーも時空間も様々です。そのため、法学の知識であったり、歴史の知識であったり幅広い学際的な知識が重要となります。幸い筑波大学、特に社会学類では他専攻、他学類の授業を取りやすい環境が整っており、学際的な知識を深めることができるので、多角的な視点から分析する力を養えると思います。そしてなによりゼミの中や友人同士で様々な話題について議論したことは、視野を広げるうえで一番の経験になったと自分自身感じております。私は今、地方公務員として行政に携わっています。まさに「政治」に関わる仕事ですが、大学で学んだ分析する力は業務に臨むうえで非常に重要だと感じており、これはどんな職業であってもしっかりと身につけておきたいです。

堅苦しく考えず、「政治」だけではない政治学を学んでみませんか?

卒業生の声

経

経済学主専攻卒

山川 直樹

筑波大学
大学院人文社会科学研究所所属



経済学と聞くとみなさんは「お金」についての学問と思われるかもしれませんが、実際には「お金」そのものよりも「お金に対して人々がどう動くか」ということを考える学問だと私は思っています。(必ずしもお金だけに対してということではありませんが・・・)その分析の対象となる領域も様々で金融や貧困についてだけに留まりません。近年では法学、生物学、心理学、脳科学、・・・など多様な方面へ対象領域を拡げています。

また経済学は他の社会科学の分野に比べ数学を多用します。これは社会学類の経済学主専攻も例外ではありません。経済学主専攻に進もうとしている人にとってそれは避けては通れない道です。もちろん経済思想や経済史をやろうと思っている人もいますが、数理系の授業をとらないで卒業することはおそらく不可能でしょう。(逆に言えば思想や歴史の授業をとらずに卒業することも不可能ということですよ。)

しかし、数学が苦手という人や、数学をしたくないから文系に入ったのという人も悲観的にならないでください。経済学主専攻の先生方は非常に面倒見がよく、親しく接してくれます。わからないことがあれば許す限り時間割いてくれるでしょう。さらに学生にやる気があれば授業とは別に勉強会を開いてくれる先生もいます。また経済学主専攻は人数が少なく縦の繋がりが横の繋がりに密接です。試験前に共に勉強に取り組んだり、下級生向けにゼミや専攻の説明会を企画したり、経済学検定のチーム戦に出場したりと様々なことを同じ主専攻の仲間たちとしてきました。私が卒業した今もこれらのことは続いているはずですよ。

経済学主専攻に入れば同じ学問を共有する仲間たちと互いに助け合い、高め合えるだろうと私は信じています。経済学主専攻は他の主専攻と比べ何かとハードルが高く感じられるようですが、実際にはさほど苦労することはあまり無いでしょう。(少なくとも私はですが・・・)それでは、みなさんの大学生活が充実することを心から願っています。

経

経済学主専攻卒

綿谷 悠

丸善株式会社
学術情報ソリューション事業部



みなさんは、いつまで勉強すればいいのか、何のために勉強しているのか、考えたことはありますか?

私は今、書店「丸善」で、大学をはじめとした教育の場に「知」の灯りを燈すべく、書籍はもちろん学びの場を豊かにする様々なソリューションをご案内する仕事をしています。(ちなみにこの「知を燈す」というのは丸善の経営理念でもあります。)扱う分野は人社、理工から医療と多岐に渡りますが、第一線で研究をされている先生方にお会いするわけですから、当然こちらも必死に勉強していかなければいけません。というより、学ぶことを止めたら、仕事もそこから前へ進まなくなってしまう、そんな仕事です。

私は学生時代、決して机に向かうのが得意なタイプではありませんでしたが、学生同士で勉強会を開いたり(社会学類の中でも経済には様々な分野出身の編入生が多く、必ずしも経済学の議論にならないことも多々ありました)、先生の研究室にお邪魔して話し込んだりといったことをよくしていました。このような恵まれた環境が、様々な分野に目を向け学ぼうとする基礎を作り上げ、今の仕事へと繋がっていったのだと思います。

今皆さんが勉強する理由は、「大学に入るため」かもしれませんが、もちろん、それも正解です。ですが、その先を見る眼も忘れずに持っていてください。また、勉強をするときに、これは必要な学問だ、これを学ぶと有利だ、ということは考えないで頂きたいです。大学では、社会では、いつどんな形でみなさんが身につけた知識が生きてくるかわかりません。勉強とは何も教科書の中に限られるものではないのですから。見たもの、聞いたもの、感じたもの、きっかけはいくらでも転がっていて、その中で学ぼうとする人だけが、前に進めるのだと思っています。

最後に、最初の二つの質問に私の答えを出したいと思います。私は、一生、自分らしく生きるために勉強したいと思っています。みなさんでもぜひ社会学類で自分なりの答えを探してみてください。



在 学 生 達 の 声

社会学類2年 ●渡辺 圭



社会学類2年 ●野崎 洋平



これから
専攻を選ぶ
在学生達に聞く!

みなさんは社会学類にどのようなイメージを持っていますか？ここでは社会学類生の生活を紹介していきます。まず、大学生というのは高校生よりも遙かに自由です。授業をたくさんとって見聞を広めるもよし、サークルや部活に打ち込むもよし、留学して語学や文化を学ぶもよし、自分の専攻を極めるのもまた良いでしょう。さらに社会学類ならば、法律を専攻としながら政治学や経済学の勉強を深く勉強することだって可能です。もっといえば芸術や心理学、宇宙科学の勉強まで出来ちゃいます。つまり、自分のやる気次第で可能性はぐんと広がる学類なのです。また、社会学類の大きな特徴として、学類生同士の仲が非常に良いです。他の大学のように一つの学科に何百人、何千人というわけではない上、毎年約一週間もの間、社会学類の先輩方が行う新入生歓迎会があります。その為、学類生同士の距離はとても近く、高校のクラスと同じで知らない顔はありません。友達との遊びはもちろんの事、勉強会、討論会など学習面においても互いに切磋琢磨できる最高の環境であるといえるでしょう。

ところでみなさんは、つくばがどんな所か知っていますか？つくば市はとても新しい街で、今も開発がどんどん進んでいます。その為、とても近代的で綺麗な学術都市です。しかも秋葉原まで45分です。最高ですね。安い家賃で快適に暮らしている上、気が向いたらすぐ東京へ買い物や遊びに出掛けることが出来ます。住むには大変な東京も、たまに行けばとても楽しく感じられますよ。さらに筑波大学には一人暮らしの学生が多いので、いつでも友達の家へ遊びに行けます。つくばはそんな素敵なおとこです。

さて、今まで学類の生活や環境を伝えてきましたが、みなさんもこんな素晴らしい環境で大学生活を送りませんか？社会学類生としての大学生活と一緒に楽しみましょう。

筑波大学の特徴として真っ先に挙げられるのは、やはり落ち着いた環境のもとで勉強に励むことができるということだと思います。都心から離れた筑波大学は、緑に囲まれ、常に穏やかな雰囲気にも包まれた大学です。そんな中で生活しているだけあって、学生たちのほうも全体的に穏やかな気質をもっていると感じます。必要以上に体面を取り繕うことなく、ありのままの自分で大学生活を送りたい。そんな人にこそふさわしい大学なのではないでしょうか。

もちろん、刺激が欲しい人は東京に繰り出してもいいでしょう。つくばエクスプレスの存在から、少し足を伸ばせば短時間でさまざまなところへ遊びに行くことができます。平日は静かな場所でも大人しく勉強に集中し、週末となれば東京であればあつと買い物を楽しむ。そんなライフスタイルを実現することができるのも、筑波大学ならではの魅力ですね。

さらに、私が学習の場として筑波大学を選んだ理由としては、社会学類の特徴が私の求めるものと一致したところにもあります。

筑波大学社会学類は、三年次に社会学・法学・政治学・経済学の中から主専攻を選び、それを専門的に学んでいくというスタイルをとっています。これは、初めから学部を決めて入学する普通の大学のシステムとは一線を画すものです。大学入学前、これらのうちのいずれの学問にも一定以上の興味があった私にとって、入学してからそれぞれの学問に関わる講義を受け、これらが具体的にどのような勉強を進めていくものなのかを実際的に知ることができたのは、自身の将来の方向性を決める上で非常に有益でした。

現在、私は法学を専攻するつもりで意志を固めています。それは、法律が私たちの生活と極めて密接に関わっているものだというのを強く感じ、さらに深く学習をしていきたいと思うようになったからです。

本当にやりたいことを見つかる場として、これ以上ない。それが、筑波大学社会学類だと思います。

社会学専攻

小野 静香



好きなことが勉強だったらいいのに。そう思ったことはありませんか。数学のテストじゃなくて、自分の好きなテレビ番組のテストだったらどんなに楽しいだろうと。なんと、社会学ではそれが実現できます。社会学は自分の興味の全てが研究対象です。音楽、ファッション、スポーツなど趣味の中にも「社会」は隠れているし、家族、学校、アルバイトなどの生活の中にも「社会」はあります。「一生懸命教科書を読むよりも、家でテレビを見ていた方が社会学の勉強になる。」と授業である教授がおっしゃっていましたが、まさにその通りです。ニュースをはじめ、バラエティもドラマも現代社会の流れを表彰した立派な社会学的研究対象です。私たちの暮らす社会を一步引いて学問的に眺めてみる、すると今の社会とはどんなものなのか、大きな流れが見えてきます。社会学ではそうした見方や考え方を学ぶのです。

例えば、私の所属するゼミでは、「若者の社会変容」をテーマに研究しています。教育、労働、余暇の過ごし方などの分野で現代の若者はどう変化しているのかということ、文献を読みながら勉強しています。ゼミ活動というのは、社会学演習、社会学調査実習のことで、担当教授と学生でひとつのテーマに対してより深く学びます。筑波大学では少人数でのゼミが特徴なので、ひとりひとりが興味のある分野でレベルの高い学習ができます。

また、社会学類では社会学の他に法、政治、経済に関しても学ぶことができるというのが一番の魅力だと思います。社会学は自分の好きなことが勉強だと言いましたが、ひとつの社会を捉えるためには様々な視点が必要です。そこでは法学や経済学での知識も生かせるので、ただ社会学だけを勉強するよりもより多角的に社会を理解することができます。みなさんもぜひ、ここ社会学類で自分の好きなことを勉強してみませんか。きっと楽しい大学生活が送れるはずです。

法学専攻

海老原 由香



「法学って難しそう…、つまらなそう…」、そういうイメージを持っている人は少なくないでしょう。確かに法学を勉強する上で六法全書は必需品です。けれども法学というのは法律の文言を一字一句覚えいくものではありません。私は法律を学ぶことでさらに社会の仕組みに関心を持ち始め、知れば知るほど法律は身近な存在なのだということが分かってきました。

法律に反したら罰が課せられると私たちは思いがちです。しかし、今日も国会で法律改正案が審議されており、実際に法律はまだまだ改善の余地があり時代に沿って変わっていくものです。法律を変える際には、様々な意見が対立し、何度も審議が行われて出来上がります。その意味で法律は堅苦しいものでなく柔軟性があるものと言えるのではないでしょうか。法律を学ぶということは既存の法律の在り方を知り、そこにある問題点を見つけ、それに対してどのように考えるべきか、改善すべきかを考えることです。

社会学類では他の大学では別々に設置されている「学部」を「専攻」という形で設け、3年次で4つの専攻に分かれます。つまり1・2年生は様々な分野の学問を学べるわけです。私はこのシステムはなかなか良いものだと思っています。というのも、高校生の時点では自分がどんな学問分野に向いているか正直分かりません。むしろ最初から決めつけてしまっ、大学入学後に、自分に合っていないのかもしれないと苦しむこともありうるでしょう。大学は4年間もあるので、自分が学んで楽しい、好きだと思える学問を学ぶことが一番です。社会学類は、社会科学についての基礎的な知識を学ぶことができます。その中で自分に一番合っていると思える学問を見つけて下さい。

最後に、私たちは今まで以上に法について基礎的な知識を備える必要があることを知っておいて下さい。裁判員制度の開始は法について考える契機でもあります。さあ、法についてあなたも学んでみませんか？

帰国生徒 ●高杉 敦子



筑波大学に来たことによって私は本当の自分と出会えたように思います。筑波大学では自分の学類だけではなく、他の学類の講義も受けることができます。その中で本当に自分に合った学問を見つけるチャンスがあります。約13年間の海外での経験とこの筑波大学の環境のもと、私は社会学という学問に辿り着くことが出来ました。

また、筑波大学は多くの学生が一人暮らしをしており、近所さんは友達だらけです。一人の時間を過ごしたければ部屋に帰ってゆっくりし、淋しくなったら夜中でも集まり大騒ぎ。そんな学生ならではの生活を十分に楽しめることが出来るのも都会を離れた筑波ならではのものかもしれません。

皆さんもぜひ筑波で充実した大学生活を送ってみませんか？

帰国生徒 ●武本 昂



みなさんはじめまして。突然ですが、あなたは何を基準に大学を選ぶうと思っていますか。

筑波大学には毎年ユニークな学生が山ほど集まります。4年間の学生生活では学類・サークル・ゼミなどいろいろな人と接することになるでしょう。

そこでは4年間では全然足りないような出会いがたくさんあります。大学に入るとまず、自分の直感を信じ、「この人だ!」というメンターを探し出してください。

メンターとは指導者という意味ですが、なにも先生だけに限りません。先輩、同期、あるいは後輩でもいいでしょう。自分よりはるかに抜kindで人からは多くのことを学べます。

つくばと都心は意外と近くです。ぜひ、気軽に足を運んで授業に参加してください。きっと筑波大の雰囲気を入るはずです。みなさんとキャンパスで会える日を楽しみにしています。

帰国子女・留学生達に聞くと!

政治学専攻

ストウピッチ ネヴェン



正直に言えば、政治に興味を持ち始めたのはつい最近のことだ。最近と言っても、高校を卒業した直前のことだった。そのころまだ母国のクロアチアでの政治状況しか知らなかったが、政治と言う言葉自体が私にとって、そしてたぶん多くの人々にとっても非常に悪い意味を持っていた。しかし皆は政治家に不満を抱きながら、不平を言っているばかりで何もしようとしない。その時点では私もそのような環境の中では希望のない政治だと感じた。しかしながら皮肉にもその希望のない政治に興味を持ち始めた。「どうして人々は他人に責任を任せがちなのか」、「政治とは本来どういうことか」、また「なぜ政治自体が必要なのか」と言うようなかなり漠然とした疑問が頭の中から溢れ出した。

政治学を勉強している人は政治家になるしかないと考えている人が多いのではないだろうか。政治学をしっかり勉強して、自己の利益に固執する政治家ではなく、国民の利益を優先的に考えてくれるような政治家になることが望ましい。他にも政治家になる以外に案外様々な選択肢があると思う。メディア、PR、地方自治体や国際機関等、政治に熱心な人には活躍できる機会がいくつでもある。

特に筑波大学の社会学類には様々な政治学に関する科目が巧みに作られている。私が筑波大学を選んだ理由は他の大学と違い法学中心ではないことや、政治学の専門科目を1年生のときから学べること、様々な政治形態、概念、思想を学べる制度が設けられているという印象を受けたからだ。政治学の基礎から、日本の政治についての授業や国際政治を分析している科目まで、幅広いカリキュラムが作成されている。更にゼミでのディスカッションを通して他の意見と価値観を比較しながら自己の視野を広げることができる。

各専攻で学ぶ
在学生達に聞く!

経済学専攻

熊谷 綾香



「経済学」と聞くと、みなさんはどういったことを思い浮かべるでしょうか?おそらく、文系なのに数学を使うとか、お金儲けのための学問であるとか、そういったイメージが強いと思います。もちろんそういった側面もありますが、それがすべてではありません。「私たちが喜ばず社会の動きや仕組みを明らかにしていく学問」と大きくとらえた方が、わかりやすいと思います。つまり、私たちにとって非常に身近な学問なのです。

私たちの日常生活において、景気、経済政策、株価など経済に関するニュースに触れない日はありません。しかし、「それはなぜなのか」「どういった影響があるのか」と考えることはあっても、それをしっかりと理解する機会はなかなか無いのではないのでしょうか。経済学を学ぶことによって、今まで曖昧にとらえていた世の中の情報に対して、一歩踏み込んだ見方ができるようになります。そして、社会全体がどのように動いているのか、経済学を通して理解することができます。

経済学専攻に進むと、理論や思想を学ぶだけでなく、実際の事例から学ぶ機会もたくさんあります。例えば、工場見学では、企業の生産管理のあり方にじかに触れます。ゲーム理論では、豊富な事例や実験を通じて、人間の最適な行動に対する直感的な理解を得られます。この経済学専攻の最大の特徴は、少人数制であることです。そのため、学年は関係なく仲良くなれますし、先生とも親しくなれます。みんなで勉強をしたり、先生と議論をしたり、そういった時間の中で、自分の知識や関心が形成されていくと言っても過言ではないかもしれません。

こういった恵まれた環境を通じて、非常に多くのことが吸収でき、世の中の出来事に対する疑問に自分なりの答えを見出すことが可能になります。

一緒に経済学を学び、社会の仕組みを考えていきませんか?

留学生 ●キム ジナ



高校生の時、「もっと広い世界が見たい!」、「今までと違った環境で勉強し、新しい経験をいっぱいしてみたい!」と思った私はとても興味深く思っていたお隣国、日本への留学を決意しました。肝心の大学を選ぶ中、高校の先生から社会学で高い水準を誇る筑波大学を薦められました。社会学…もちろん普段から社会の仕組みやその

関係性が気になったことは全然ないとは言えませんが、それについて深く考えてみたこともない私が社会学を専攻にして勉強をするなんて…不安と期待感が交差しました。

入学から1年、まだ慣れている事より慣れない事が、分かっている事より分からない事だらけです。しかし、自分が暮らしている日本で起きている様々な社会現象に興味を持ち、そのような現象に実際参加してみたり、自分の経験に基づいて理論的に学んだりすることができるようになりました。これに留まらずこれからは「留学生である私だからこそできること」を探して、自分なりの研究をしてみたいと思います

留学生 ●ヨウ コウイツ



経済と聞いたら、多分みなさんにとって数学を使って利得の損益を計算するものだと思ひ浮かべるかもしれません。実際は経済が生活の隅々まで強く関係があるというのは事実です。つまり、経済は簡単に文系の授業と思ひ込みましたら経済的に考えれば損になることになります。なぜかという、経済的な考え方を学んだら、他の分野にも融合的に、論理的に応用することもできます。つまり、今日の経済学はフロンティアサイエンスに位置づけられると言えるのです。たとえば、今は話題となっている行動経済学や経済物理学はその中の代表だと言えるでしょう。それらは経済学と心理学や物理学と融合した学問です。また、今まで一番実感したのは、経済学をしっかり勉強すれば柔軟かつロジカルな思考力、鋭い洞察力、冷静な推理力と合理的な判断力を自然に習得することができます。なので、自分の人生に役に立つ学問ともいえるでしょう。

社会学主専攻

社会学への招待

現代社会の様々な出来事は、思いがけないところで私たちの社会生活に変化をもたらしています。変わりゆく企業組織と家族関係の揺らぎ、新しい宗教現象と若者文化、外国人労働者の増加と地域社会、多様化するライフスタイルとメディア、例を挙げればきりがありません。経済、政治、文化、技術など一見ばらばらに見える社会の各領域も、実は相互に深く関係し合っており、そうした複雑な仕組みに眼を向けることなしには、現代社会を理解することはできません。

社会学は、こうした社会の各領域の成り立ちやそこに発生する問題を、特に私たちの日常生活のレベルから解明すると共に、さらに異なる領域の間に広がる見えにくい関係の連鎖を、人間や組織・集団の観点から自由に明らかにすることを、課題としています。本学の社会学主専攻では、主として社会問題論（国際移動・差別・犯罪・逸脱行動・労働）、文化論（スポーツ・都市・メディア・知識・歴史）、医療・福祉論（老いと病い・社会保障・介護）を専門とするスタッフが、様々な学生の関心に対応した社会学の「フィールド」を整備しています。（下記の「卒業論文タイトル抜粋」を見てみて下さい）皆さんも、私たちが用意したこのフィールドで自由に駆けまわってみませんか？

教育方針と特色

社会学主専攻の科目は、社会学の基礎的な概念や理論を学ぶ社会理論、データを収集し分析するための方法を学ぶ社会調査・社会データ分析、そして家族や地域、産業、福祉、メディアなど個別分野についての社会学に大きく分けることができます。本主専攻では、単に社会理論を教育するだけでなく、現代社会のさまざまな問題に対して自ら頭と足で取り組む能力を養成するため、社会学演習（ゼミナール）と社会調査実習を開設しています。また国際的な視野から日本社会を学ぶことも重視しています。学生は、こうした学習の成果をまとめる機会として、卒業論文に取り組むことになっています。

将来の方向と進路

マスコミ・製造業・金融業・調査研究機関・サービス業などの民間企業や公務員など、きわめて多様な分野へと卒業生は就職しています。また、希望を生かして教員になるケースもあります。さらに、人文社会科学研究科(国際公共政策専攻社会学分野)をはじめとする大学院に進学することにより、より専門的な研究を続ける道も開かれています。



専門科目講義



調査実習の一環で市民イベントをお手伝い



秋葉原見学(社会学演習)

卒業論文タイトル抜粋(平成21年度)

- 郊外型大型商業施設における都市的空間の考察
- 日本の社会変動と新宗教
- 船員への予期的社会化～階級性に焦点をあてて～
- 球場から見た戦後日本とプロ野球
- トライブ越境の可能性としてのメディアミックス
- インターネットコミュニティと死の受容
- ロスト・イン・パラダイス～アメリカ映画に見る「日本」イメージの解読～
- 「メンタルヘルス」ブログの自己物語
- 「日雇い派遣」労働現場でのコミュニケーション
- 「死」の系譜―「山口二矢」の読解と日本社会―
- 発達障害と社会の心理主義化
- 病理化されるセクシュアルマイノリティ
- 性同一性障害から見る二重性の歪曲
- エリート高校における部活動～フィールドホッケーを事例として～
- 「同質性のキツさ」の構図
- 箱根駅伝のメディア社会学
- 乳がん体験の可視化
- 音楽シーンを作るとはどういうことか



いがらし やすまさ
五十嵐 泰正

「都市社会学」「移民とエスニシティの社会学」「社会学演習IV」「社会調査実習」▶【都市社会学／国際人

口移動論】▶「大学の中に引きこもっている社会学者に、社会の何がわかるんだ」でもっとも。否定はしません。「社会は社会に出てから肌で覚えるから、社会学なんていらんよ！」それはどうかな？「社会」には、たくさんの<社会>があります。油の匂いの漂う工場にも、深夜のファミレスにも。図書館でちょっと時代を遡れば想像もつかない<社会>があるし、海を渡ればちっぽけな予測を軽く裏切る<社会>が待っています。そうそう、大学もひとつの<社会>です。「社会人」になってから、安易に「社会」がわかった気になって失敗しないために、さまざまなく社会>にまみれながら、いくつもの<社会>の成り立ちを自分の頭で考えておく。それが社会学主専攻で過ごす大学生活です。



たらかわ のりこ
樽川 典子

「家族社会学」「ジェンダー社会学」▶【家族社会学／福祉社会学】▶知識を習得する勉強から、学を問う学問

へ。筑波大学社会学類で学ぶ楽しさの一つは、ここにあります。メディアがとりあげる出来事だけが社会でしょうか？人びとの生活のさまざまな事象をつうじて見えてくるものにも注目していきましょう。社会とは大学とは？大学教授は何を考えているのか？わかりやすく知りたい方は、下記の文献を通読してみてください。

▷山下和美『天才柳沢教授の生活』全21巻、小学館



かつらやま やすお
葛山 泰央

「知識社会学」「社会学演習」▶【言説分析／知識社会学／フランス政治哲学】▶社会学という学問的な営

みの特徴付けているのは、さまざまな社会(的事象)をその内部から観察することの二重性、つまりは「社会への視線」と「社会からの視線」とが互いに織り成す、ある種の往復運動にほかなりません。その意味で、社会学とは、近代社会の自己観察の営みであるともいえます。私たちの生きる社会への、私たちの生きる社会から向けられる、こうした視線のダイナミズムを、あなたもぜひ一度体験してみませんか。



ファン スンヒー
黄 順姫

「社会学演習」「調査実習」「スポーツ文化論」「教育社会学」▶【教育社会学／文化社会学／スポーツ社

会学】▶社会学の演習では社会学理論と、フィールドでの調査方法を学び、関心のあるテーマで論文を作成します。たとえば記憶の社会学では、記憶の空間、時間、身体論を検討し、同窓会、スポーツ、整形・エステなどの分野からテーマを設定し、ゼミ論を完成します。調査実習では、直接フィールドに出て、たとえば、中等学校の学校現場、同窓会、または新宿大久保コアタウンで調査し、報告書を完成します。社会学研究の面白さを堪能してください。



どい たかよし
土井 隆義

「現代社会学」「犯罪社会学」「社会学演習」▶【犯罪社会学／法社会学／逸脱行動論／社会問題論】▶

社会生活における様々な病理現象を素材に、社会的なものを見方について考える授業を行なっています。社会学というパースペクティブから様々な病理現象をながめると、社会と私たちの関りについて、今まで気づかなかった意外な側面が見えてきます。私たちの生きている世界は、決して一枚の織物ではありません。様々な織り重なった意味の層を探検してみると、重大な社会問題と思われるものが、じつは別の側面から現代社会のシステムを支えていたり、あるいは逆に、望ましいと思われていた理念が、その裏側では病理現象を招いたりすることが分かってきます。社会病理に対する道徳的な判断も一つの偏見ではないかもしれません。授業をとおして、社会病理をめぐる従来の常識を突き崩す面白さを味わうとともに、社会の中で私たちが生きていく意味についてもぜひ考えて下さい。



よしひ ひろあき
好井 裕明

「差別の社会学」「エスノメソロジー」▶【差別問題／エスノメソロジー／映画社会学】▶社会学には、

ふたつのセンスが必要です。一つは「あたりまえ」を常に疑うセンスです。普段なげなく暮らしている日常。私たちはそこで、どのように「普通に」「普通であること」に安住しているのでしょうか。今一つは、常に現実に向きあい現実を具体的に調べようとするセンスです。「あたりまえ」を疑い、そこにはられたさまざまな問題や力の行使など詳細に調べ、読み解き、批判していくために、「調べる」ということが基本なのです。



のがみ げん
野上 元

「歴史社会学」「社会学演習」▶【歴史社会学、メディアと情報学の社会学】▶なぜ社会学をやるかと高校

生の頃に考えたのかを思い出してみると、人々の営みを見高から説明することに魅力を感じていたのかもしれない。意外な視点で世の中や人間関係をばっさり斬り、物事の捉え方を変化させて、何気なく見えていた風景を変える…。社会学を学べば、まるで自分が世事から超越し、何か偉い人間になれるのではないかと思ったわけである。ただ、今ならそうは考えない。社会は高見から説明できるようなものではないし、つくづくそれは無力な高校生が頭のなかだけで一発逆転を狙っていたようなものだったと思う。



おくやま としお
奥山 敏雄

「組織社会学」「社会学基礎論」「社会学演習」▶【組織社会学／社会システム論／医療社会学】▶教科書に

書いてあることがすべて正しいと思わない態度を身につけることが大切。社会についてはいろいろな見方や考え方が成り立ちます。様々な社会認識に対して、自分なりの距離を取れるようなタフさが必要なのであって、唯一の正しい見方を教えてくれと求めることは、安住できる宗教を求めるようなものです。大学に入ったら受験の思考回路を早く捨ててください。



もり なおと
森 直人

「労働社会学」「社会学演習」▶【労働社会学／社会階層論／戦後日本社会学】▶「労働」をめぐる2つの問

題を考察しています。1つは「労働」のあり方を通じて社会の構造的な格差や不平等がもたらされるメカニズム。もう1つは、人が「労働」に必要な知識や技能を身につけ、さらに「労働」そのものによって成長していくプロセス。私たちは社会の「あるべき姿」にむけて「格差是正」や「制度改革」を性急に求めがちですが、そこで前提として自明視されている《常識》はしばしば実態とかけ離れた歪んだ像を描き、善意にもとづく問題解決に向けた介入が「意図せざる結果」をもたらすことも多くあります。社会学はこうした矛盾をはらんだ複雑なメカニズムを解明していくためのツールなのです。

*上から氏名▶「担当授業」▶【研究分野】

法学主専攻

法学への招待

現代社会の複雑多岐な社会生活は、様々な法律や制度によって運営されており、人としてそこに生きる以上、好むと好まざるとを問わず法にかかわらざるを得ません。新聞を開いてみれば、個人のプライバシーとマスコミの取材の自由の問題、少年犯罪、児童虐待の増加等、「法的」な問題を毎日のように目にします。また、国際化の進展にともなって、外国企業の合併や吸収、国際貢献など、外国とのあいだで法的な解決を迫られる場面も増えていきます。法律というと、一見、日進月歩の科学技術とは異なり、固い、旧態依然というイメージがあるかも知れませんが、決してそのようなことはありません。証券取引の規制、ソフトウェアやバイオテクノロジーの保護や規制、ネット社会特有の諸問題への対応等、新たな法現象が生じてきたこともあって、情報化・国際化の今日、法学には、時代の変化に柔軟に対応することが求められているのです。

教育方針と特色

法学主専攻では、ひろく法にかかわる基礎的な理論・システムの把握を教育の中心においており、そうした教育を通じて、幅広い法的なものの方、考え方を養うことを主眼としています。基本的な実定法を通じて、現実の法体系を学ぶことで、長い歴史のなかで培われた人間の叡知の豊かさを理解し、その社会的役割を適正に評価することが、なによりもまず求められます。

法学主専攻のカリキュラムは、様々な実定法から、政治学・経済学・社会学・人文関係系統にいたるまで、幅広いものを含んでいますが、そうした科目の学習を通じて得られる、社会生活全体を広い視野で考察する適切妥当な観点と判断力が、まさに法的なものの方、考え方の現れなのです。様々な法分野の講義から、少人数形式のゼミナールにいたるまで、法的議論の「場」は多々用意されています。

将来の方向と進路

卒業生の就職先は企業・団体など多岐にわたり、国内外で広く活躍しています（うち約2割が公務員）。また、卒業生の約2割が法科大学院へ進学し法曹を目指しています。



専門科目の講義風景



演習風景



模擬法廷の風景

演習テーマ抜粋（平成22年度）

●憲法判例の検討 ●憲法の基本問題 ●会社法、保険法の重要判例の検討 ●運送法・国際貿易慣習の検討 ●親族法・社会福祉法等の基本文献の検討 ●刑法各論の重要問題の検討 ●行政法の諸問題の検討 ●紛争解決の法的技術の検討 ●民事訴訟法の解釈問題の検討 ●信託法に関する問題の検討 ●裁判（その他の紛争解決制度）の役割と限界の検討 ●子どもをめぐる問題の総合的検討



おかうえ まさみ
岡上 雅美

「刑法Ⅰ」「刑法Ⅱ」「刑法Ⅲ」▶【**刑事責任論／刑罰論／量刑／ドイツ刑法**】▶大学とは、知識を増やすだけ

が目標ではありません。大学での4年間(以上?)をどのように過ごすかで、良くも悪くもその人の一生が決まります。「本当に好きなこと」を大学生活の間で見つけてください。それぞれの「本当に好きなこと」を達成するにも努力と正しい戦略が必要なはず。できるだけ広い視野をもち、いろいろな物の見方ができるといことが大切でしょう。いろいろなことを体験し、いろいろな本を読み、そして、是非是非、学生の間、今まで行ったことのない外国を訪れてみてください。



こくぶん のりこ
國分 典子

「法学概論」「憲法Ⅲ」▶【**韓国憲法／憲法思想史**】▶みなさんの中には、将来について既に明確な目標を持っている人も、まだ何を

していいかわからないでいる人もいます。でもそれぞれ、あせらないで4年間いろいろなことを考えてください。そして時間をかけて、自分が一番大事にしたいものを発見してってください。それが必ずしも勉強や就職に直結するとは限りませんが、人生を豊かにし、苦しいときにも支える力になってくれると思います。



つちや ひでお
土屋 英雄

「憲法Ⅰ」「憲法Ⅱ」▶【**憲法学／比較人権法学／中国法学**】▶元気に(身体面)、真剣に(勉強面)、楽しく(精神面)、学生生活を送って下さい。



はぎわら かつや
萩原 克也

「商法Ⅰ(総則・商行為)」「商法Ⅲ(有価証券)」▶【**運送法(海上・航空)／有価証券法**】

▶商法の分野は複雑に見える部分もありますが、基本は「合理性」を追求した「実用的な制度と解釈」です。マニュアル思考とは違う法的なものの方の見方・考え方、論理性を習得し、社会にでたら起業家になったり、専門知識を生かして主体的に生きていこうと考えている方を歓迎します。まずは堅苦しく考えずに飛び込んでみてください。



でぐち まさよし
出口 正義

「会社法」「保険法」▶【**会社法／保険契約法／保険業法**】▶大学ではこれまでとは違い

自由な生活ができます。思いっきり遊び、思いっきり勉強してください。どちらかに偏っては良くありません。なにごとにもバランスが大事です。自分の好きなこと、興味のあることを思いっきりやってみることで、そこからきっと何か生まれ君の心を動かし、君の感性と思考力を豊かにしてくれるでしょう。推薦する書籍は特にありませんが、歴史小説、スパイ小説、冒険小説、文学書、専門書でも何でもよいですから本を読むことを勧めます。自分の知らない世界・人間社会などをたくさん知ることがとくに社会学類の学生には大事です。映画や落語や演劇や音楽、スポーツなど何でもよいですから娯楽を楽しむことです。人間性を豊かにしてくれるでしょう。私のメッセージは「自由な心で思いっきり」です。



むらかみ まさこ
村上 正子

「民事訴訟法Ⅰ・Ⅱ」「国際民事訴訟法」▶【**国際民事訴訟法／外国判決の承認・執行／弁護士倫理／証拠法**】▶大学での4年間

は、今までの受身の学習を通して得た知識を活かしつつ、自分から積極的にどんどん学ぶことにより、将来の人生における選択肢を増やす大事な時間です。将来の夢が決まっている人もそうでない人も、できるだけ多くのことに挑戦して下さい。人生において無駄なこと、無駄な知識など一つもない、マイナスをプラスに変えようという前向きな姿勢を持ち、卒業するときに、「いや～、4年間楽しかった!」といえる、そんな大学生活を送って欲しいと思います。私から皆さんへのメッセージは、「意志あるところに道は開ける」です。



よこた こうへい
横田 光平

「行政法Ⅰ」「行政法Ⅱ」▶【**行政法／子ども法**】▶法学の世界には、まだまだ明らかに

されていないことがたくさんあります。わからないことだらけです。教員から学生に一方的に教えるだけでなく、逆に学生から教わることも多くあります。一緒に「うーん、よくわからないね」とあれこれ考えてみましょう。



もとざわ みよこ
本澤 巳代子

「親族」「相続」▶【**家族法／社会保障法／ドイツ法**】▶離婚や児童虐待など家族の抱

える問題は、家族の中だけでも、法律知識だけでも解決できません。社会問題や社会政策としての側面、心理的側面なども一緒に考えて、初めて解決の糸口を見つかることができるものです。筑波大学社会学類には、このような総合的視野からの勉学を可能とする科目が揃っています。社会学類を志望する学生諸君には、こうした学類の特徴と利点を理解した上で、大学に来てもらいたいと思います。



ねもと のぶよし
根本 信義

「裁判実務Ⅰ」「裁判実務Ⅱ」「裁判実務演習」▶【**裁判実務／法教育**】▶4年間はあっ

という間に過ぎてしまいます。知的好奇心を発揮して、いろいろな本を読んだり、さまざまなことにトライしてみてください。そうした中で、さらに夢中になれる何かが見つければ、あなたの人生にとってきっと大きな財産になるでしょう。推薦したい本は山ほどありますが、最近の新書は、手軽に読めてしかもなかなか奥が深いので、ファーストステップとしてはうってつけです。まずは、橋爪大三郎人間にとって法とは何か(PHP新書)、長谷部恭男「憲法入門」(岩波新書)、大屋雄裕「自由とは何か」(ちくま新書)、岡本薫「世間様が許さない!」(ちくま新書)などを読まれることをお勧めします。

ほしの ゆたか
星野 豊

「契約」「債権総論」「信託法」▶【**民法／信託法／金融法**】▶少なくとも学群生である間は、主専攻とする分野や将来の希望職種にとらわれることなく、幅広く学び、自由に考えることを心がけてください。興味を持つ対象が社会科学の範囲を超えて、他の領域に及んでいくことも、全く差し支えないと思います。逆に言えば、「自分はこの分野を専門としている」ということが、「他の分野のことは分からないし関心もない」ということにならないように、十分注意してください。

政治学主専攻

政治学への招待

今日、私たちは政治の圧倒的な影響のもとに生活しています。実際、国際間でおこった一つの地域的なテロが全世界の市民をその渦中に巻き込み、政府が決定した一つの経済政策の失敗が、国民一人ひとりの生活のすみずみにまで浸透してきています。私たちが政治に関心をもたなくとも、政治が私たちをとらえてはなさないのです。

政治学はこのような政治の世界を理論的、科学的、歴史的に分析し、理解し、同時に政治のあるべき姿を科学的、思想的に考察しようとする学問です。人間・集団・社会・国家に発生するさまざまな利害の対立と解決の様相を研究するこの学問にとって、「人間」に関する多様な認識と深い洞察力は不可欠であり、そのためには、幅広い教養と専門的な知識を吸収しようとする旺盛な知的好奇心が求められます。

教育方針と特色

政治学主専攻では、政治に関する基本的な概念、理論、歴史などを学ぶ基礎的な講義、入門演習を通して、政治学的なものを見方を身につけます。そして、専門科目、専門演習に入って政治理論、政治思想、政治外交史、国際政治等、それぞれ自分の関心領域を決め、研究を深めます。

とくに演習は、少人数、自主的運営を原則とし、テキストの輪読や興味ある研究テーマについての報告、討議を行い、その成果をゼミ論文としてまとめることになっています。

演習はまた、学生の企画、討論への参加を通して自立心を育てる場であるとともに、ゼミ活動を通じて、学生同士はもとより、教員との相互親睦を深め、社会人としてのあり方を具体的に実践する機会を提供してくれるでしょう。

将来の方向と進路

就職先は、マスコミ、金融、製造、不動産、サービス業、さらに国家、地方の公務員等、多岐にわたっています。最近では、企業の総合研究所や情報関連企業に就職する卒業生も出てきています。また、大学での研究を深めるために大学院に進学する者もいます。



専門科目の演習および講義風景

卒業論文タイトル抜粋（平成21年度）

- 安倍政権下における教育政策転換の政治過程
- 欧州統合の拡大と深化—共通外交安全保障政策の事例をとって—
- 湾岸戦争とその後の世界への影響について
- 代議制民主主義と有権者の意思
- グルジア紛争—紛争勃発の背景と要因—
- ねじれ国会における政策決定
- 安全保障問題をめぐる中央地方関係
- 自治体の風力発電政策について
- 資源小国・日本の食料安全保障と農業政策
- 日本の航空行政
- 地域自治区の現実と理想
- ルソーの国際関係論
- 総力戦体制下における国史教育を見直す
- アメリカの対中東政策—ブッシュ政権とイラク—
- 中国少数民族政策の「理念」と「現実」—回族を通しての考察—
- イスラエルの国家統合と対外政策
- 過疎地におけるソーシャル・キャピタルと自殺



いとう しゅういちろう
伊藤 修一郎

「行政学」「都市政治学」「地方自治論」▶【地方自治/パブリック・マネジメント/行政組織/まちづくり】▶学生時代に

は気づきにくいのですが、大学の授業って、先人の知恵が詰まった宝の山なのです。社会に出てそのことに気づいた私からアドバイスさせてもらえば、日々の生活の中で感じる「なぜ?」「おかしい!」と思ったことを大切に、その疑問や問題意識を授業に持ち込んでみてください。きっと政治や行政の授業が、無味乾燥な呪文から、人と組織とが織りなすドラマに変わり、生活に密着したガイドとなり、改革の道筋を示す地図ともなるでしょう。



こんどう やすし
近藤 康史

「政治思想」「政策過程論」「現代政治分析」▶【政治理論・思想/福祉国家論/イギリスを中心とした現代ヨーロッパ

政治】▶政治学を志す理由の一つに「社会を良くしたい」というものがあるでしょう。しかし、自分にとって「良い社会」が他人にとっても「良い」とは限りません。社会には様々な考え・価値を持つ人々が存在するからです。その多様性を踏まえながら、いかに平和的な共存の方法を見出すか、これこそが政治学の根本的な問いです。その問いへ向けて、まずはできるだけ多様な人々との付き合いやコミュニケーションを通じて様々な考えや価値に触れてみましょう。それが政治学への第一歩です。



みなみやま あつし
南山 淳

「国際政治学」「国際紛争論Ⅰ,Ⅱ」▶【国際政治理論/国際安全保障論/グローバル化と国際紛争/国際組織】▶「一

人を殺せば犯罪者となり、数百万人を殺せば英雄となる、数が殺人を神聖なものにするのです…」映画『殺人狂時代』(1947)のなかでチャップリン演じる連続殺人犯が発したセリフです。倫理的判断はどうあれ、人間の生命を理不尽に奪う行為という意味では、殺人と戦争の分岐は犠牲者の「数」に求めるしかないのかもしれませんが。ただ誤解してはならないのは、大量虐殺の結果、殺人が正当化されるわけではなく、「正当」とされる目的が戦争行為における殺人を合理化しているという点です。

近年のイラク戦争を見ても分かるように、その戦争(目的)が正しい否かの判断は、人によって、国によって、時代によって大きく変わってきます。「正しい戦争」は本当にあるのか、この国際政治の難題を皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。



ちえ じょん
崔 宰栄

「計量分析入門」▶【計量政治学】▶社会をとりまく色々な問題に対し、自分なりの意見を持って積極的に取り組みながら、自分の価値や潜在的能力を導き出し、社会の一員として何ができるのか、何をすべきなのか、という問いに答えを見つけてみませんか。



まつおか ひろし
松岡 寛

「政治外交史」「欧米政治外交史」▶【アメリカ政治外交史/冷戦史/ヴェトナム戦争史】▶受験勉強中のみなさんは、世界史や日本史は「暗記科目」で、つまらない

と思っているのでは?でも本当は、歴史とは推理小説のようなもの。世の中に発生した無数の出来事の中から、それぞれの目で「事実」を選び出し、独自の「解釈」を加えることで、何が起きたのか、なぜそうなったのかという「物語」をつくりあげていく作業です。20世紀、とくにその後半の政治外交史を舞台に、その面白さを一緒に味わっていきませんか。



すずき そう
鈴木 創

「比較政治学Ⅰ」「比較政治学Ⅱ」▶【現代アメリカ政治/議会研究】▶新聞やテレビで政治が

語られない日はありません。政治についての知識やイメージを得ることはそう難しいことではないでしょう。でも、常識とされていることが本当に正しいのか、常識とされる現象がなぜ起きているのか、ちょっと立ち止まって自分の頭で考えてみてください。有名な評論家がテレビで話していることも、大学の先生が本で書いていることも、批判的に考える姿勢を身につけましょう。



ふるた ひろし
古田 博司

「東洋政治思想」「情報戦略と政治」▶【東アジア政治/北朝鮮政治/宣伝煽動工作と思想教化/特定アジアの反日

と日本の安全保障】▶今はポストモダンの時代ですが、学生諸君がまだ物心ついていない頃、日本にもモダンな時代というものがありました。世界は一直線に進歩していると思込み、平等や自由が当たり前の理想のように唱えられ、進歩的文化人とか、良心的知識人といわれる人々が、その伝道者のように論壇を占拠していました。しかし、そのような安易な時代は終わってしまった。いまは生きる意欲をみなが自分で高めなければならない時代です。外を見れば、近代化に失敗した国は民生を犠牲にして核とミサイル開発に走り、資本主義を始めたばかりの独裁国は偏狭なナショナリズムに駆られ、公害や毒食を世界にばら撒いています。内を振り返れば、身の回りのリスクは増



つじなか ゆたか
辻中 豊

「政治学」「市民社会政治論(大学院現代文化・公共政策専攻)」▶【各国の市民社会と政治/NGO・NPO・利益集団

/政治過程の比較分析】▶政治は面白い…と15歳で感じてから、30年余、私は今も楽しく研究しています。中味はいずれ講義で聞いてください。政治は運命への自己決定という側面もあり、どうしてもなく大きな歴史の流れという側面もあるので、多様な接近が必要です。歴史の奔流に流されず、メディアやエリートに操られず、自分が主人公になること、そのために政治学がありますが、さてその肝心の自分とは何でしょう。それを知ることから研究が始まります。そのためには自分「研究ノート」をつけましょう。



たけなか よしひこ
竹中 佳彦

「日本政治論」「日本政治思想」「現代政治外交Ⅰ・Ⅱ」▶政治学・日本政治論(イデオロギーと政治意識、投票行動な

どの計量分析/戦後の政治外交・思想史)▶政治とは、あらゆる人間諸集団に見られる、人間の相互作用によって生じる現象です。それを対象とする政治学は、古代ギリシャにまでさかのぼれる学問で、経済学や心理学、社会学、歴史学などの隣接諸科学の影響を受けながら発展し、時代に応じた役割を果たしてきました。複雑な現代の諸問題を解決するために、学問はますます学際化し、総合的な視点で物事を捉えて政策的に思考する人材が求められています。社会科学を広く学びながら政治学を学べる社会学類のメリットを生かし、そのような能力を培って下さい。

大しているし、淘汰・自滅・墮落は人々を飲み込もうと待ち構えています。

今大事なことは、外に対する防御を固くするとともに、内における生きる意欲を絶えず高めていくことだと思っています。私の講義では、特定アジア(中国・韓国・北朝鮮)に対する我が国の安全保障を考えます。私のゼミでは、文章修業を中心に行い、マスコミ・情報関係への諸君の就職活動を積極的に支援します。昨年度は、日経・NHK・産経などに人材を送り出しました。

強きをくじき、弱きを助け、社会的承認を獲得して生きる意欲を高めていく、そういう現実的、実務的、かつ庶民的な教育方針を採っています。

●おすすめの本:古田博司『東アジアの思想風景』(岩波書店、1999年サントリー学芸賞受賞作)、『東アジア・イデオロギーを超えて』(新書館、2004年読売・吉野作造賞受賞作)、現状分析は適宜「産経新聞」正論欄に執筆しています。2006年には、産経正論新風賞を受賞しました。

経済学主専攻

政治学への招待

経済学は、人文社会科学で唯一ノーベル賞の対象となっている学問分野であり、システムティックな方法と高度な論理性を備えている点に特徴があります。経済学の方法は、狭い意味の経済現象の分析用具として大きな成果をあげてきただけでなく、政治、法律、労使関係、家族、環境問題、都市、教育、国際関係といった他の分野にも幅広く適応されて、深い洞察をもたらしてきました。その結果、今日では、それらの分野も経済学の重要な領域となっています。

経済学は、文科と理科の二つの側面をもった学問です。自然科学と同様に、経済学では明確な仮定の下での論理性に厳格です。また経済学が文种的であるのは、単に対象が人間活動であるからではなく、他の人文社会科学と同様に歴史や思想を重視するからです。

経済学は、しばしば誤解されるような、金儲けや社会の効率化の手段ではありません。それは、社会問題を明析に、客観的に、そして検証可能な形で思考するための手段なのです。

教育方針と特色

経済学主専攻では、論理演算に片寄った経済学教育を避け、理論と歴史・実証分析の調和された教育内容を設定することで、広い社会的関心をもちながら、現代の問題をシステムティックにとらえる能力の養成を目的としています。

また、他大学の経済学部と比べて教員一人当たりの学生数が少ないという特色を生かして演習（ゼミ活動）を重視しています。

そこでは、活発な議論を通じて経済学をより深く学べるよう留意するとともに、工場見学を実施したり、日本銀行証券取引所見学を実施したりなど生きた経済を学ぶための実習的な取り組みも積極的に行っています。

さらに必修ではありませんが、学生生活の総決算として卒業論文をまとめることを推奨しています。

将来の方向と進路

就職先は、銀行など金融業から、製造業、マスコミ（新聞記者など）、教職、公務員などさまざまな分野に及んでいます。また、研究者をめざして大学院に進学する人もいます。



工場見学（クリーンルームにて）



演習風景



講義風景

卒業論文タイトル抜粋（平成16～21年度）

- ハイエク経済学と彼の『貨幣発行自由化論』
- 筑波研究学園都市中心部における歩道環境の評価・経済学における倫理の役割―A.センの見解によせて
- 茨城県のベンチャー企業の現状とその課題
- Children in Developing Countries: The Case of Thailand
- 企業価値評価の方法～無形資産に焦点をあてて
- ホテル経営モデルの考察



おたに きよし
小谷 清

「マクロ経済学」「経済変動論」▶【マクロ経済学／日本経済】▶社会科学の中で唯一サイエンスといえる経済学は、他の社会科学分野のちょっと面白いだけのお話とは違う、持ち重りのする組織的な知見です。経済学は、初歩的な自然科学の知識のように日常生活に必要でもあります。筑波大学関係者で4番目のノーベル賞受賞者たらんとする学生が入学されることを期待します。



ひらさわ てるお
平沢 照雄

「日本経済史」「現代経済史」「日本経済論」「経済学演習V」▶【現代日本の経済規制と規制緩和／地域経済の歴史と現状】▶今日の日本経済は大きな転換期にあります。日本経済は、どのような歴史を経て現在に至り、今後どのような方向に向かおうとしているのかといったことに興味をもち、日本経済の歴史と現状について学びたいという学生に出会えることを楽しみにしています。



みのわ まり
箕輪 真理

「開発経済学」「経済学演習X」▶【開発経済学／ラテンアメリカの経済／開発政策／社会開発】▶世界は大きくて私たちの知らないことは無限です。そんな世界に生まれてきた私たちは本当に幸せ。限られた時間をどうすごし、何を考えて、いかに生きるのか、自分の選択次第です。自分の選択に責任を持って、たくましく生きてゆけるための基礎固めをする時間、それが大学での4年間です。社会学類に入学して、勉強は本当に楽しいということを実感してもらえることを願っています。



なか しげと
仲 重人

「ミクロ経済学」「公共経済学」▶【公共選択論／公共経済学】▶人は、自分が社会関係を通じて形成した眼鏡をとおしてこの世界を見ています。眼鏡の良し悪しについては絶対的な基準はないかもしれませんが、しかし、少なくとも、経済学的手法は、一つの代替的な、かつ、とても興味深い眼鏡を提供してくれると思います。私の場合はそうでした。これは、自分と社会を認識している自分の視座を変革し、異なるレベルの満足と理解を得るために役に立つかもしれません。



しづかき ともいち
篠塚 友一

「経済学基礎論」「ミクロ経済学」「産業組織論」▶【ミクロ経済学／社会的選択理論／厚生経済学】▶某大学の経済学部を受験すべきか商学部を受験すべきか迷っていたとき、当時その大学の商学部3年生であった方から、経済学部受験を勧められました。その方がおっしゃっておられたように、経済学は面白く、かつ有用な学問です。このことを深く理解するためには、最初の2年間は数学（線型代数、微積分）や論理学をじっくり学ぶとよいでしょう。



ふくずみ まさかず
福住 多一

「経済数学」「国際経済学」▶【進化ゲーム理論／行動ゲーム理論】▶経済学の考え方を身につけると、ややこしそうな社会の仕組みがスッキリとわかります。本格的な学問ですから習得にはコストがかかりますが、それよりもあなたが得るものの価値は大きいでしょう。



たかみざわ ひでゆき
高見澤 秀幸

「ファイナンス入門」「経済統計学」「外国語経済書講読III」「経済学入門演習II」▶【ファイナンス】▶皆さんの普通の生活で起こること（あるいは起こりうること）が、社会学類で学ぶ対象になります。その意味で、世の中の出来事に対して関心を持ち、なぜなんだろうという疑問を持つことが大事です。その答えが（全部ではないかもしれませんが）、この大学で見つかると思います。その中で、経済学の提供する答えは非常に明快です。特に、どう考えどう行動したらよいのか迷ったときに、羅針盤の役割を果たしてくれることでしょう。経済の理論や歴史を学ぶことで、皆さんの未来へ向けた道筋がはっきりと見えてくるかもしれません。



ひらやま あさじ
平山 朝治

「経済思想史」「経済学演習Ⅷ」▶【経済思想／経済システム・文化・思想の進化と持続／日本社会】▶大学生になると、あらゆる面で、それまでと比べて自由に自分ごとを決められるようになりますし、大学を卒業すると、これほどの自由や時間的余裕は二度と得られない人が多いでしょう。入学目的の受験勉強が終わった後、自由を持ってあましたり、自由に背を向けること（カルトにはまるなど）にならないように、何ができるか、何をしたいかを予め考えて、夢を持って志望していただきたいと思っています。

*上から氏名▶「担当授業」▶【研究分野】

「社学生」の生活



第三エリアの食堂。通称「三食」。専門店が並び人気のお店はいつも賑わっています。▶



▶2007年夏、移設オープンした「STUDENT PLAZA」。ここには「就職課」などがあり、就職活動に関する様々な資料が詰まっています。



▶宿舎に入居している学生を中心に、毎年5月末に行われる宿舎祭。写真は学類ごとに製作された御輿が披露され、盛り上がっている様子。

新入生歓迎行事における野外炊飯の様子。準備から片付けまで一緒にやることで、一年生同士の距離が縮まるかも…。▶



▶授業の合間に一食でつくる学生達。夏の旅行の計画でもたてているのでしょうか？



第一エリアの食堂、通称「一食」。名物のカレーを大盛りにしても…。▶



▶学務などの学生生活をサポートする人文社会科学等支援室(学群教務)。新設丁寧な対応で、皆さんをサポートしています。

休講、教務連絡、バイト情報などなど様々な情報が満載な掲示板です。▶



▶人気授業の「政治外交史」の授業風景です。映像も使いながらの授業を行っています。



▶ゼミ発表の打ち合わせ。何週間も前からこのような発表準備をしているんですね！



◀ゼミの風景。少人数で行うので、先生と学生が積極的に議論を行える場です。

これは10月の雙峰祭で社会学類の学生が開いた喫茶店です。売上は結構よかったみたいです。▼



▲年2回、春と秋に行われるスポーツデー。サッカー、バスケット、バレーなど様々な種目が行われ、多くの学生・教職員が参加します。



◀毎年10月に行われる「雙峰祭」。社会学類企画委員会が主催する「松美記念」では、馬に扮した学生達が松美池を疾走します。出馬したみんなで記念撮影。



◀5月に行われる「やどかり祭」の注目のイベント、「ゆかたコンテスト」のバックダンサー達です。メンバーは社会・国際学群から選ばれます。



▲第二、第三エリアの間にある噴水。天気の良い日には、ここでのんびりしている人を多く見ます。



◀大学内では自転車での移動が基本。駐輪場は自転車で埋まっています。



▲10月に行われる学園祭「雙峰祭」の様子です。一般のお客さんとサークルや学類の屋台で賑わっています。毎年大変盛り上がる筑波大学最大のイベントです。



▲中央図書館です。図書館内にはテイクアウト可能な喫茶店もあります。試験期間前になると多くの人が課題に追われて図書館を利用します。

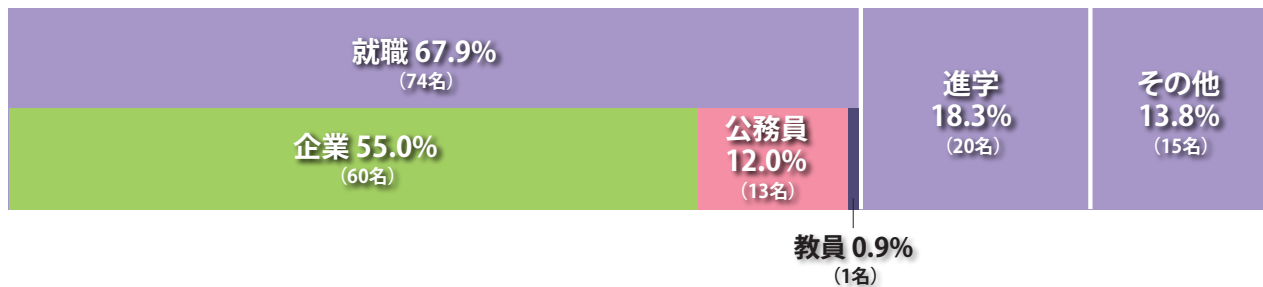
◀社会学類誌「そおしあ〜る」の編集会議の風景です。発行部数は500を越える人気の学類誌です。

Campus Life

卒業生の進路

平成19年度

【卒業生 109名】



企業就職者の内訳

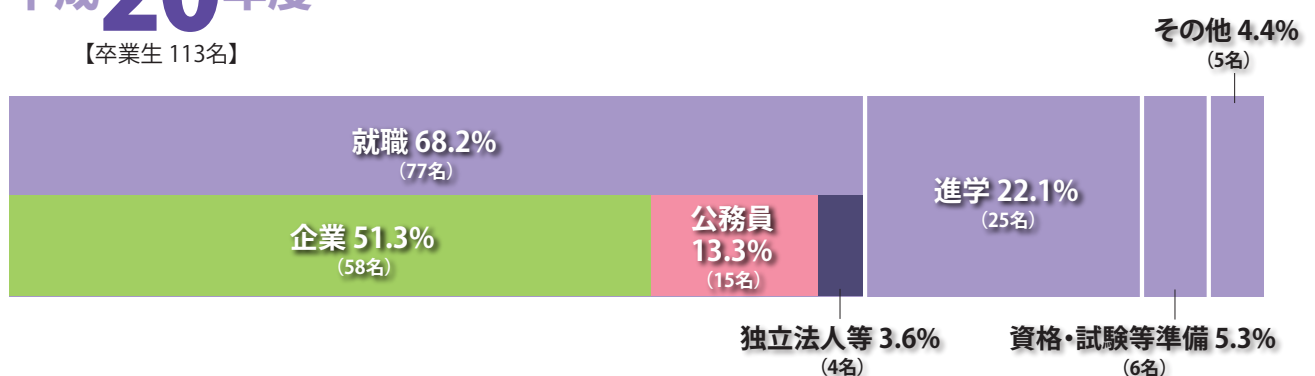


A 金融・保険業……………18.3%……………11名
 B 運輸・通信業……………6.7%……………4名
 C サービス業……………31.6%……………19名
 D 製造業……………25.0%……………15名

E 卸売・小売業……………6.7%……………4名
 F 不動産業……………6.7%……………4名
 G その他……………5.0%……………3名

平成20年度

【卒業生 113名】



企業就職者の内訳



A 金融・保険業……………24.1%……………14名
 B 運輸・通信業……………5.2%……………3名
 C サービス業……………29.3%……………17名
 D 製造業……………20.7%……………12名

E 卸売・小売業……………17.2%……………10名
 F 不動産業……………3.5%……………2名

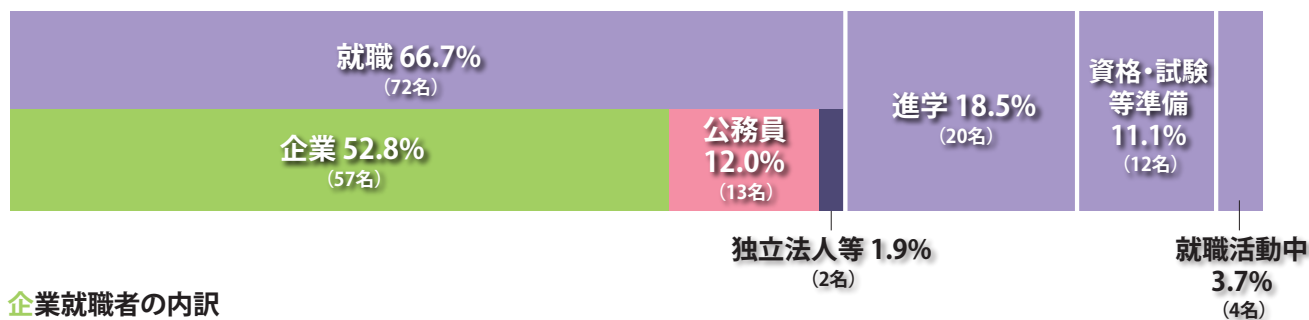
社会学類の卒業生の進路は、民間企業、マスコミ関係、国家公務員・地方公務員、教職などへの就職や、大学院（ロースクールを含む）への進学など、それぞれの志望にしたがって多方面にわたっています。

卒業生は、すでに社会の各分野で幅広く活躍しており、高い評価を受けています。

平成21年度の卒業生の進路状況を見ると、就職者が66.7%、進学者が18.5%になっています。就職先は企業が79.2%、公務員が18.0%となっています。さらに企業就職者の内訳をみると、サービス業(33.3%)、金融・保険業(26.3%)、製造業(21.0%)の順に多くなっています。

平成21年度

【卒業生 108名】



企業就職者の内訳



- A 金融・保険業……………26.3%…………… 15名
- B 運輸・通信業……………12.3%…………… 7名
- C サービス業……………33.3%…………… 19名
- D 製造業……………21.0%…………… 12名

- E 卸売・小売業……………5.3%…………… 3名
- F 不動産業……………1.8%…………… 1名

最近の主な就職先 (平成19~21年度)

【金融・保険業】

三井住友銀行／みずほ銀行／常陽銀行／筑波銀行／千葉銀行／七十七銀行／三菱UFJ信託銀行／ゆうちょ銀行／大和証券／野村証券／新光証券／日本生命保険／住友生命保険／朝日生命保険／明治安田生命保険

【運輸・通信業】

日本通運／日本航空インターナショナル／成田国際空港／全日本空輸／名古屋鉄道／朝日新聞社／日本経済新聞社／産経新聞社／中日新聞社／南日本新聞社／H.I.S.／ソフトバンクテレコム

【サービス業】

NHK／新潟テレビ21／毎日放送／日本IBM／リクルート／三井不動産／東映／住友商事／三菱UFJニコス／郵便局／ジュピターテレコム／アサンテ／法律事務所

【製造業】

凸版印刷／川崎重工業／新日本製鐵／住友化学／日立化成／昭和シェル石油／ダイハツ工業／横浜ゴム／クラレ／日本たばこ産業／プリマハム／味の素冷凍食品／セガ／パイオニア／セイコーエプソン／シャープ／東芝／丸善／双葉社

【卸売・小売・飲食業】

ローソン／エーエム・ピーエム・ジャパン／三越伊勢丹／ニトリ

【国家公務員】

国税局／労働局／家庭裁判所／防衛省／総務省／金融庁

【地方公務員】

都道府県庁（東京、茨城、埼玉、群馬、岐阜、静岡など）／市区役所（横浜、さいたま、つくば、世田谷、板橋など）／警察署（埼玉、静岡など）／東京消防庁

【独立行政法人など】

日本音楽著作権協会／国立文化財機構／鉄道建設・運輸施設整備支援機構／新エネルギー・産業技術総合開発機構／茨城大学／信州大学／筑波大学

入学案内

入学定員1学年80名（国費留学生は別枠）／編入10名

1

推薦入学試験

募集人員 16名
試験時期 11月下旬
試験科目 小論文、面接

2

学力試験

募集人員 前期64名
試験時期 大学入試センター試験…1月中旬
個別学力検査… 前期 2月下旬

▽個別学力検査の試験科目

前期

- 外国語（英[英II・リーディング・ライティング]、独、仏、中の中から1科目を事前選択）
- 数学（数II・数B）／国語（現代文・古典）／
地理歴史（世界史B、日本史Bから1科目を選択）から1教科事前選択

後期

（平成23年度入試より後期日程は実施しません）

3

私費外国人留学生試験

募集人員 若干名
試験時期 2月下旬
試験科目 小論文、面接

4

2学期推薦入学

募集人員 若干名
試験時期 7月
＊帰国生徒のみ試験科目 小論文、面接

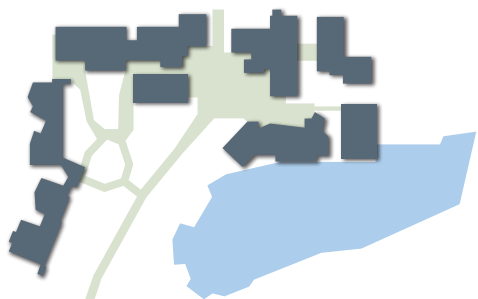
5

編入学試験

募集人員 10名
試験科目 2月下旬
試験科目 各主専攻分野の専門科目、外国語、面接

◎問い合わせ

先筑波大学学務部入試課入試第一係 Tel. 029-853-6007
なお、募集要項の発表は、毎年9月下旬です。



筑波大学社会学類案内誌

社会学類への招待

2010年7月24日 初版一刷発行 禁無断転載

編集委員 黄順姫 委員長：野上元 高見沢秀幸 崔宰栄 村上正子
編集協力：野崎洋平（2年生）・渡辺圭（2年生）

企画・編集 社会学類広報委員会

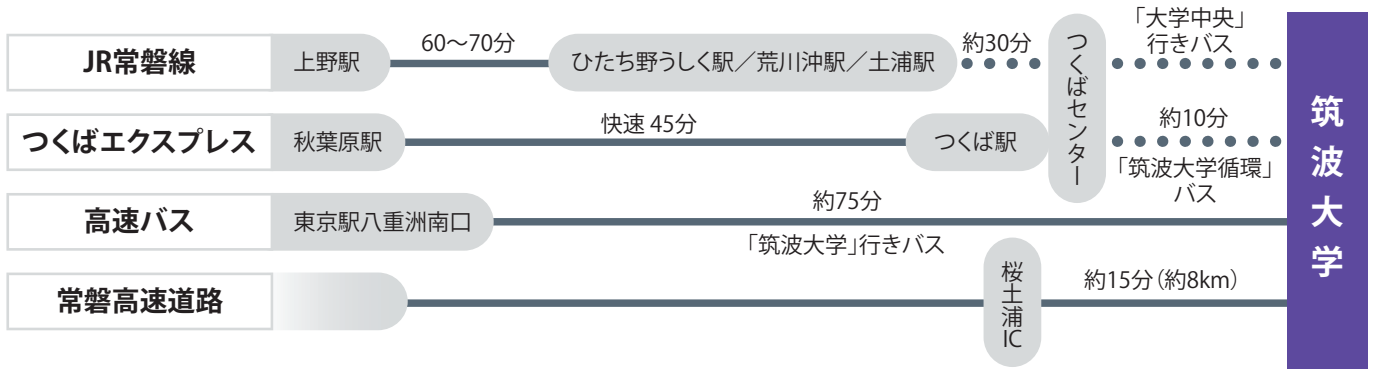
デザイン 松澤康行

写真 小沼涉

発行 筑波大学社会・国際学群社会学類
〒305-8571 茨城県つくば市天王台1-1-1
<http://shakai.tsukuba.ac.jp/>

印刷・製本 株式会社いなもと印刷

交通案内



筑波研究学園都市



社会学類への招待



**A Guide to
College of Social Sciences,
University of Tsukuba**